

令和元年11月13日

横手市議会議長 播磨 博一 様

産業建設常任委員会
委員長 菅原 正志

『市民と議会の懇談会』 報告書

「市民と議会の懇談会」の実施状況を下記のとおり報告いたします。

1. 開催日時	令和元年8月6日（火）
2. 開催場所	松與会館
3. 出席議員	菅原正志、本間利博、播磨博一、奥山豊和、菅原亀代嗣、佐藤忠久、佐藤誠洋、立身万千子（広報公聴委員）
4. 申請団体	（一社）横手市観光推進機構（横手DMO）
5. 参加人数	8人
6. テーマ	DMO事業報告と市政策との連携について
7. 懇談会の内容	司会：産業建設常任委員会 委員長 菅原正志 ①産業建設常任委員長あいさつ ②奥山和彦 横手市観光推進機構理事長あいさつ ③議会側の出席者の紹介 ④横手市観光推進機構出席者の紹介 ⑤意見交換 1）DMOからの事業状況等の説明（佐藤修専務理事） 2）市の観光政策とDMO事業との連携について ⑥本間利博 産業建設常任委員会副委員長より閉会あいさつ

8. 意見交換の主な内容

■経過説明

- ・観光を媒体として、地域づくりのかじ取り役を担うことが期待される、横手市観光推進機構（DMO）と市議会議員（産業建設常任委員）が懇談し、取り組みに関しての情報共有や、市の政策と連携した今後の取り組みについて意見交換することを目的に開催した。

■主な意見

- ・市と DMO の考え方を共有する場が十分とれていない現状がある。
- ・既存事業の事業委託を行う際は、直轄事業を行っている時期の段階で DMO を参画させてもらえればスムーズな事業継続が図られる。
- ・市の観光が目指す方向性を実現するために民間の力が必要な事業であれば、どんどん協力をさせてもらいたいと考えている。
- ・収益性の低い事業ばかりでは、人件費の工面や新たな試みの独自事業が行えない。市と考えの共有が出来ていないというのは課題だと日々感じている。設立3年目を迎えて私たちも経験を積んできたので、見直すタイミングだと考えている。
- ・市の観光計画の目標を達成するために、DMO 側をきちんと見てもらいたいと思う。
- ・我々は観光を潤すこと以上に、横手のファンを増やそうというふうに考えている。そのために横手に来ていただいて実際いいところを探して頂いて、ひいては移住、そっちの方に繋げればいいなと思って日々やっている。
- ・市へ独自事業のための予算要求をしても全て落とされる。予算折衝で復活予算が付くが、こちらが望んだものとは違う予算が付く。なぜなのか。
- ・市には組織の現状を見た中で判断とバックアップをしてもらいたいと思っている。
- ・観光地経営ということで、観光の生産性を上げて稼ぎ出す力をといるが、今の DMO はそこには全然まだいっていないというのが実情だと思う。気仙沼市などはリクルートの森さんという方が来て、マネジメントして、そこで情報を DMO に入れて、お金を落としてもらうという仕組みを作ろうとして一生懸命頑張っている。本来やるべきことはそこなんだと思っているが、今のところ委託した事務をやったりということに時間が割かれている。本来のマネジメントの業務が全くできないというのが実情なので、横手市としてもそこいら辺をちょっとみてもらって、本来の目的のための環境を作り出して頂ければ有り難い。
- ・DMO だけではなくて DMC。DMC というのは農業とか新しい事業とか色々な連携を作って、それで収益をあげようという、その部分については我々も目標としては持っていく部分ではないかなと。今、8つの団体が集まって出来ている、他の色々な企業の方々も入っているんだけど、その方々との目的共有意識をきちっと持てば、ある程度進めるんじゃないかなと思っている。
- ・ふるさと納税運営の受託を市に話を持って行ったことがある。返礼品の事業者のほとんどが商工会議所・商工会の会員なので、返礼品の開発も含めてテストマーケットみたいなこともできるし、是非やらせて欲しいと言ったら、市側がシステムとセットでなければ出さ

ないということだった。例えば大館市や湯沢市なんかは、そういう方式をとっているのに。ちょっと人を市からよこしてもらえば出来る。そうすると相当のお金がここに残るので、事業運営ができるのだが。











